

他国を愛しなさい！

—侵略戦争の深層心理—



東郷 潤

広い宇宙のある星に、この世は生存競争だと思っている人々の国があります。彼らにとって他国は生存競争の相手、つまりは敵です。

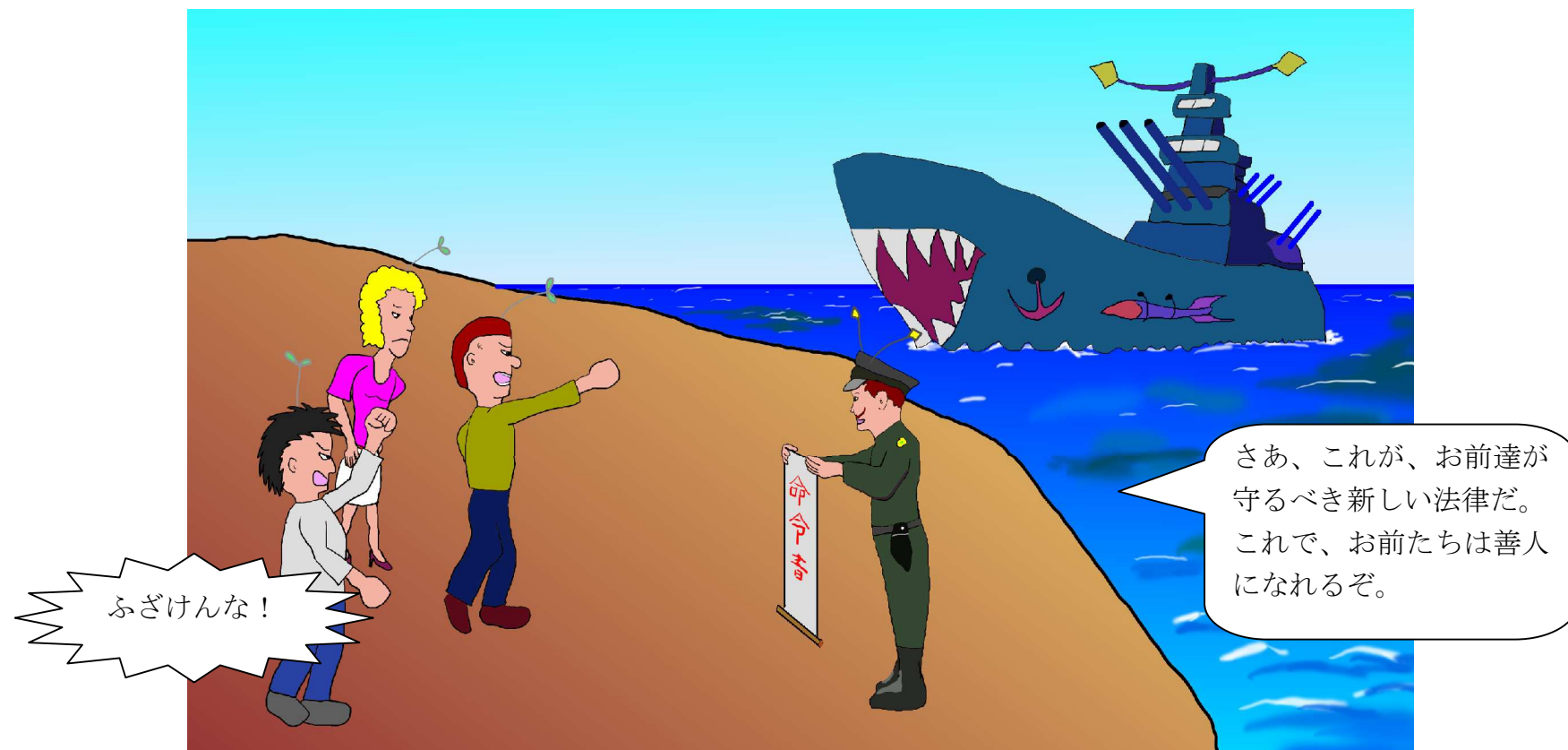


しかし、たとえ敵でも愛さなければいけないと、人々は思っていました。その国では、敵を愛することが正しいことだったのです。

そこで、その国の人々は、敵を愛するために必死に努力をすることとしました。



彼らが思いついたのは、他の国の人々の悪を善へと変えることでした。もし悪人を善人へと改心させることができたなら、…それこそ、愛することではないでしょうか。それに善人が相手なら、愛することも難しくはありません。彼らは善人が大好きなのです。



しかし、相手の国の人々は言うことを聞きません。親切に善悪を教えてあげているのに、なんていうことでしょうか？ このままでは、悪を善へと変えられません。それでは、敵を愛することも出来ません。

そこで相手の国へ戦争をしかけ、言うことを聞かない人々、つまりは悪い人たちを皆殺しにしました。



大勢の仲間を殺された相手の国の人々は、恐怖のあまり、それからは、いいなりです。

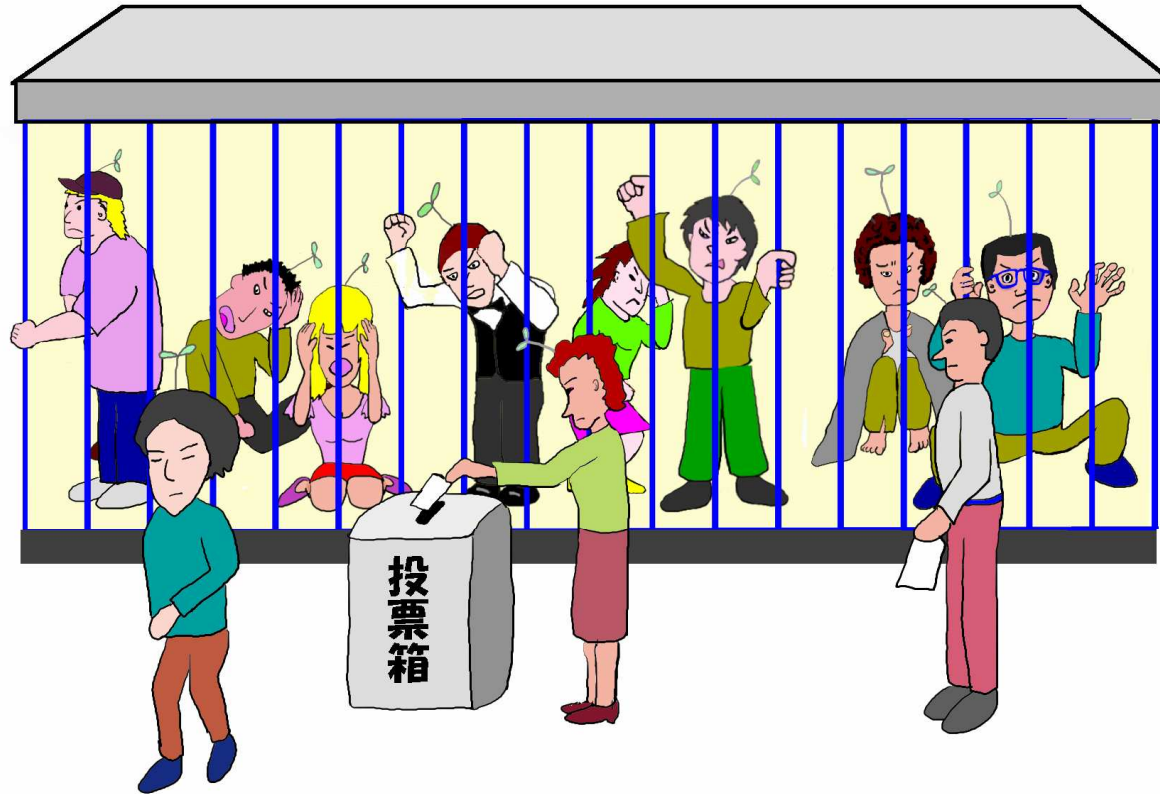
この本は発行禁止



新聞記事は検閲を受けなさい



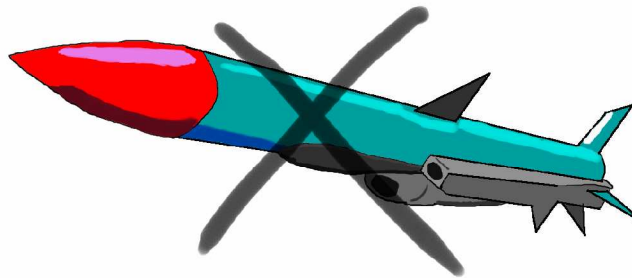
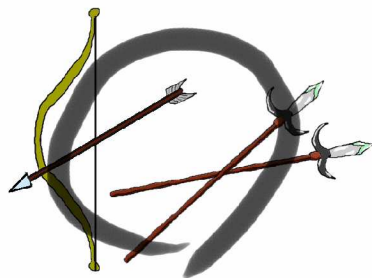
反抗した人は牢屋行き。
従順な人だけで、選挙を下さい



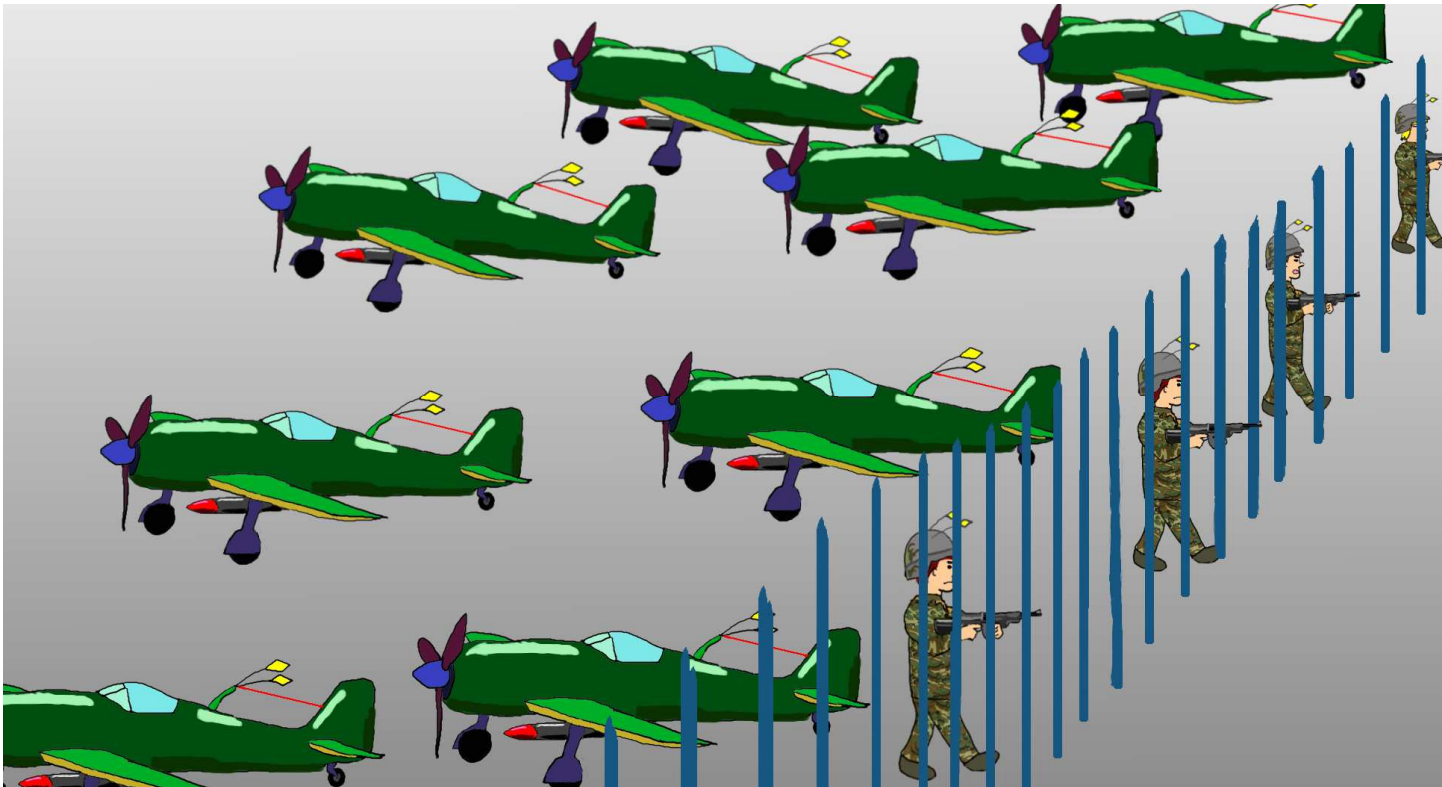
これは食べても良いけど、これは食べちゃダメ



この武器はOKだけど、この武器は禁止



この土地はわが軍が使うから、お前たちは立ち入り禁止。むろん、治外法権だよ



…何を言われても、戦争で破壊しつくされた、相手の国の人々は言いなりです。



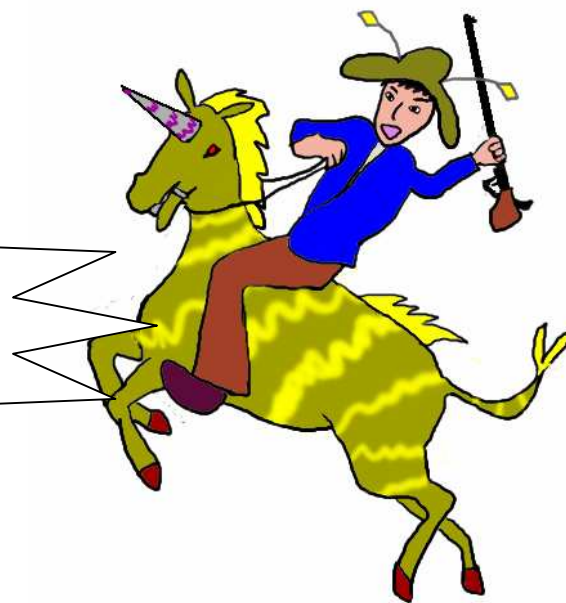
やはり愛するためには、破壊し、怖がらせる必要があるのですね。

—さてこんな風に、この国の人々は敵を愛するために、昔からずうっ〜と戦争を続けています。



お前たちの悪を善へと
変えるぞ！ 愛のために！

俺たちは、お前たち野蛮人を文明へと
導いてみせる！
それだけ、お前たちを愛しているん
だ！





俺たちが戦うのは、
お前たちの自由のため。
愛しているからなんだ

正義のために、悪と戦わなければ
いけないんだ。
それこそが、本当の愛なんだよ



ああ、これほど敵を愛せるなんて、
俺達って本当に善人だなあ！



ねえ、君たち。

この誤解は僕達の星、地球でも大勢の人たちがしています。だからあなた方、宇宙人も敵を愛するために一生懸命努力しているだけと、きっと信じているのでしょう。でもね、愛を無理に作り出すことなど、地球人にも宇宙人にも出来ません。出来るのは、せいぜい自分を騙し、愛しているつもりになって、武力と恐怖で人々を支配することぐらいでしょう。



どうか愛を命令しないで！

**愛は生まれず、
何か別のものが生まれちゃうから。**



あとがき ー絵本「他国を愛しなさい」

愛を巡っては、大きな誤解／錯覚が存在するようです。

そして、この誤解は善悪の錯覚とも有機的に結合し、人類の長い歴史の中で、様々な悲劇をもたらして来たと考えられることが出来ます。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、ご紹介していただければとお願いいたします。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2009